

戦略的デザインで目的達成！成功事例で見るデザインのポイント

経営者のためのデザイン塾 6

桜井甘精堂様（長野県・小布施町）

新しい時代感覚の栗模様でお店のイメージづくり

（社）日本グラフィックデザイナー協会
香川県デザイン協会理事
猪子デザイン研究室 主宰
INOKO SUSUMU

猪子進

御開帳参拝記念
善光寺



善光寺参拝記念
高松市宮脇町
猪子進
桜井甘精堂

御開帳参拝記念の善光寺落雁（善光寺公許第1号と桜井甘精堂の歴史の古さを物語る）

桜井甘精堂（長野県小布施町）

は文化五年（一八〇八年）創業の栗菓子では全国に名の知れた老舗。数年前、商業建築家の寒川登先生（株式会社 寒川商業建築研究所）が新しくお店を設計された折り、そのグラフィックデザイン一式をお手伝いしたのがきっかけで、今もお付き合いをさせていただいている。それまでは型染め作家の鳥居敬一先生のデザインで全て統一されていたが、新しいお店は洋風のため、和のデザインでは…という事での依頼となった。



栗水ようかん、水ようかんのパッケージ

栗の模様は大変気に入っていたので、デザイン決定後は包装紙からキヤリーバック、食器に至るすべてに展開した。そうする事でしっかりとお店のイメージの定着が図られる。現在には他の全てのパッケージ類にも展開されている。

洋風にも和風にも活きた栗の模様

栗の木テラスがオープンして数年後、長野市駅近くに長野店をオープン。その際もお手伝いさせていただいたが、新しく水ようかんのパッケージに栗模様は使えないかとの相談があり、デザインを試みた。水ようかんの文字は鳥居敬一先生の文字を生かし、栗のベース色を変えてあれこれ試作してみた。すると不思議！以前洋風に開発したはずの栗のイラストが和風にも使えた！ちよつとした驚き。通常なら洋風デザインは和風にはならない。当初栗のイラスト制作に苦労したおかげか？しっかりと和風の顔で今も店頭に鎮座している。

メインとなる栗のイラストは従来にない手法で開発

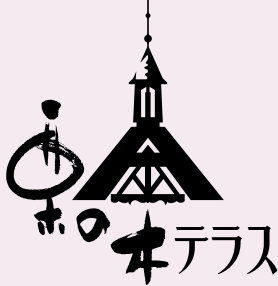
当初依頼のあったお店「栗の木テラス（手作りケーキと世界の紅茶）」

ではメインとなる栗のイラスト（模様）

の開発に時間を費やした。どこにも使っていない手法はないものかとあれこれ思案。後の展開アイテムが多いだけに慎重にデザインを進めた。幸



包装紙、キャリーバック



OBIUSE is a famous marron growing district of old. We make delicious cakes from delicious marron. Have a good time with our naturally flavored cakes.

栗の木テラスのロゴ・マーク
（栗の木の毛筆は角谷昭三氏）

猪子デザイン研究室
高松市宮脇町一丁目七之三
〇八七一一八六一四五三九